

NGP SDGs REPORT 2020



Index

トップメッセージ	3
SDGs 宣言と2030年の目標	4
目標に対しての2020年度活動報告(2019年9月~2020年8月)	6
2020年度の活動報告	10
沿革	18
組合概要	19

トップメッセージ

近年、世界各地で記録的な熱波が襲い、大規模な森林火災を引き起こすとともに、ハリケーンや洪水が未曾有の被害をもたらしています。これは地球温暖化の影響だと考えられております。地球温暖化は気温上昇だけではなく地球全体の気候を大きく変える気候変動を引き起こすと言われ、自然環境や人々の生活にも様々な影響や被害を及ぼします。日本においても、災害級の猛暑や、数十年に一度と言われる台風や豪雨が毎年のように発生しており深刻な被害をもたらしています。

令和2年10月菅総理の所信表明演説にて2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すと言われました。地球温暖化への対応は経済成長の制約ではなく、積極的に温暖化対策を行うことが産業構造や経済社会の変革をもたらし、大きな成長につながるという発想です。自動車においても早期の脱炭素化を進めるとのことから、2030年代半ばにはガソリン車の新車販売を禁止するとの報道がありました。日本国内での自動車走行等における運輸部門での温室効果ガスの排出量は約18%といわれております。

電気自動車については走行中の排気ガスは排出しませんが、製造段階及び電力の発電段階でCO₂を排出致します。動力は今後クリーンなものに置き換わっていくと思いますが、走行中以外で発生するCO₂の発生を抑制することも、今後は重要となります。

NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合では、「自動車リサイクル部品は環境に優しい」その理由・理論的根拠の説明責任を果たすことを目的に2013年より産学共同での研究を進めて参りました。NGPでは自動車リサイクル部品の利用促進によりCO₂削減への貢献を果たすだけでなく、使用済み自動車の適正処理と、素材の再資源化の高度化による廃棄物の抑制、エネルギーの使用抑制を推進することで、持続可能な社会の実現に向け取り組んでまいります。



NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合
理事長 佐藤幸雄

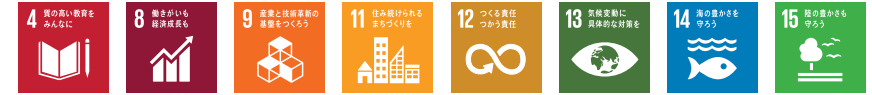
人と車と地球にやさしく
自動車リサイクル事業を通して、
子どもたちと地球の未来を考えます。

2030年NGPの目標

使用済自動車約1,000万台から2,000万点以上の自動車リユース部品の生産と適正なリサイクル処理を実施し、50万トン以上のCO₂削減に貢献します。

香川県豊島の産業廃棄物（自動車破砕くず等）不法投棄により失われた自然を取り戻す環境再生活動を行い、環境保全と3Rの大切さを後世に伝える活動を行います。

私たちは自動車リサイクル事業でSDGsの達成に貢献しています。



12 つくる責任
つかう責任



NGP SDGs MODEL

使用済み自動車から始まる「循環型社会の構築」



背景

豊島
TESHIMA



香川県瀬戸内海にある「豊かな自然に恵まれた島」

1990年国内最大級とよばれる産業廃棄物の不法投棄事件が発覚！その廃棄物とは使用済み自動車の破砕くず（シュレッターダスト）や、汚泥、廃油であり、不法投棄は1970年代後半からはじまり不適切な焼却による児童の健康被害や、土壌からは高濃度のダイオキシンや鉛・水銀・カドミウム等が検出されました。2003年から廃棄物の撤去がはじまり、廃棄物の量は93万トン以上、処理費総額は700億円以上。2018年、撤去が終わったと思われた土壌から新たな廃棄物610トンが発見され、現在も撤去作業が続くとともに汚染された地下水の浄化作業も続いています。

「環境破壊の再生には長い年月がかかり、その代償は後世が払うということ」

豊島問題は経済成長のもと、大量生産、大量消費、大量廃棄という効率を求められる社会の中、都会で発生した大量のゴミが小さな島に押しつけられるという社会問題でした。私たちの地球は資源の枯渇、増加する廃棄物、温暖化問題など深刻な状況にあります。更なるリサイクル化を徹底し限りある資源の有効利用を進め、ごみの排出量を抑制することで環境負荷を低減し、持続可能な社会の実現を目指す必要があります。NGP日本自動車リサイクル事業協同組合では、使用済み自動車の適正処理



を高度化し、その使用済み自動車から有効に活用する「リサイクル部品」を社会に提供して、求められる資源循環型社会構築への使命を果たすとともに、人々の豊かな暮らしと、子どもたちの未来のために、「人」と「車」と「地球」にやさしい組織活動を推進してまいります。

GOAL

2030年までの目標

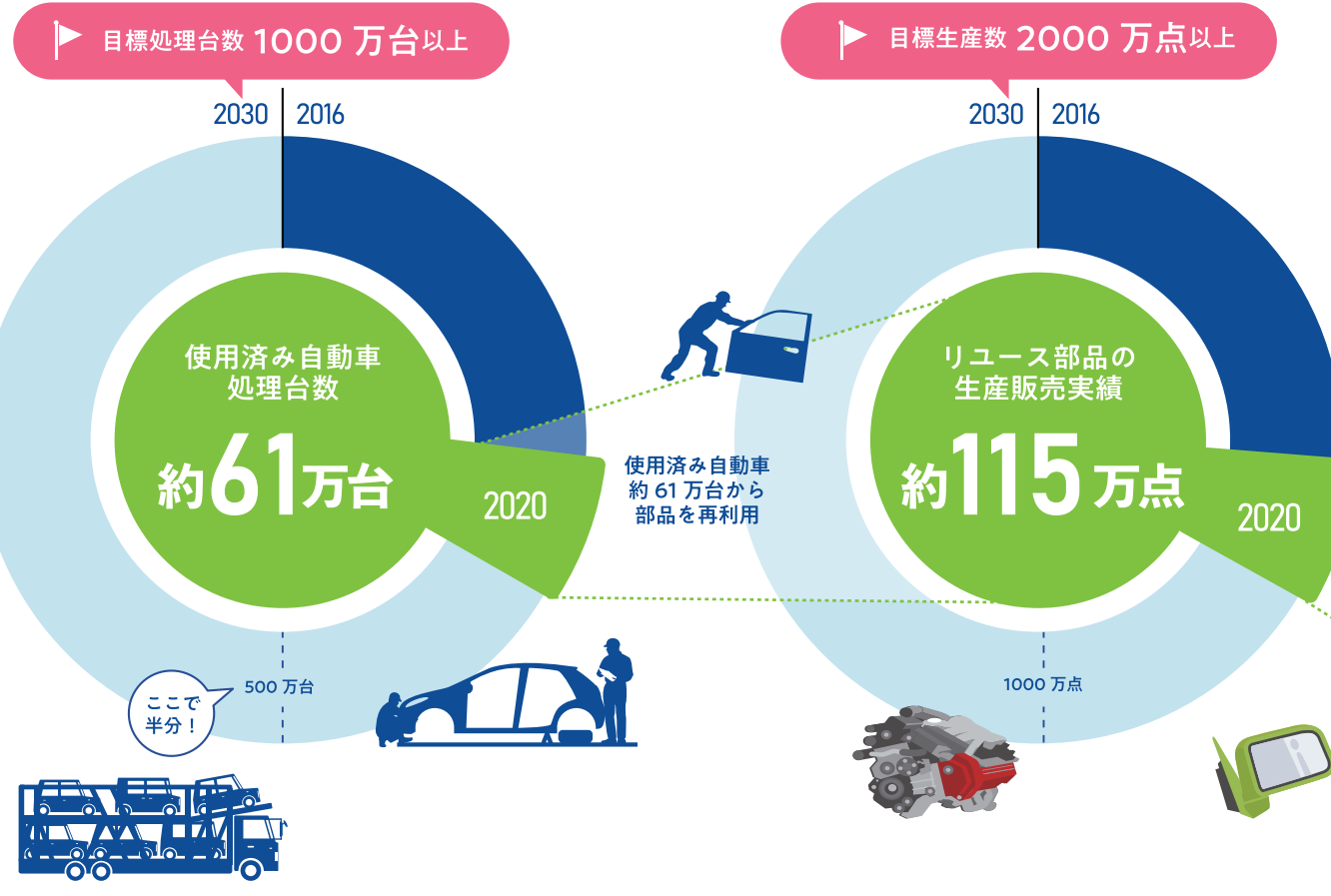
使用済み自動車約1000万台から2000万点以上の自動車リユース部品と適正なリサイクル処理を実施し、50万トン以上のCO₂削減に貢献します。

4 質の高い教育をみんなに

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含む）115品目を対象に算出した数値です。NGPの産学共同研究の成果については専用ホームページ「NGPエコプロジェクト」で公開しています。



リサイクル部品を利用することでCO₂削減

2020年
CO₂削減値
29,554t(t-CO₂)





2030年までの目標

香川県豊島の産業廃棄物（自動車破砕くず等）不法投棄により失われた自然を取り戻す環境再生活動を行い、環境保全と3Rの大切さを後世に伝える活動を行います。



NGPの目指すゴール

国立公園にふさわしい姿へ原状回復
豊島事件のようなことが二度と繰り返されないよう、環境教育の場として活用
適切な方法で管理し、持続可能な形で次世代に引き継ぐ



2030年までに不法投棄現場すべてが、国立公園にふさわしい姿にもどることを目指して活動していきます。

豊島国立公園原状回復活動

2019年10月

「袖の浜」の砂浜復元活動として、枯れた松の伐採作業を行いました。



不法投棄現場見学

2019年10月

当時の建物をそのまま利用した資料館や不法投棄現場を見学しました。



海岸漂着ごみ回収

2019年10月

ペットボトルや巨大な漁業間のブイごみ等、プラスチック類の海岸漂着ごみの回収作業を中心に行っています。



オリーブ収穫

2019年10月

瀬戸内オリーブ基金が栽培しているオリーブ収穫のお手伝いを行いました。NGPが収穫したオリーブは27.9Kgでした。



瀬戸内オリーブ基金への寄付活動

基金への寄付・募金活動と香川県豊島の環境保全・再生活動を行っています。

廃車 1台ごとに、また、リサイクル部品を使用することで得られるCO₂削減量に応じて寄付金を「瀬戸内オリーブ基金」へ寄付しています。



瀬戸内オリーブ基金について

瀬戸内オリーブ基金は、有害産業廃棄物の不法投棄事件「豊島事件」をきっかけに、2000年に設立されたNPO法人で、瀬戸内の美しい自然を守ること、再生することを目指しています。

NGPは瀬戸内オリーブ基金の活動である、豊島ゆたかなふるさとプロジェクトに賛同しています。



2020年 寄付金

豊島こころの資料館の補修に利用されます。

目録を贈呈



(写真左) NGP 鈴木専務理事
(写真右) 瀬戸内オリーブ基金 若城理事長

車両の寄贈 (廃車王岡山北店)



豊島こころの資料館 (豊島住民資料館)



2019

2019.9

「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に参画

地方創生SDGs
官民連携
プラットフォーム



2019.10 ~ 11

全国 8カ所の台風・豪雨の被災地で水没車の引き取りなどの復興支援

2019.9

SDGs 委員会発足



2019.10

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合「第15回通常総会」
株式会社 NGP「第29期定期株主総会」



2019.10

第16回初級生産管理者・フロントマン研修会
第30回初級営業マン研修会を開催



2019.10

廃車王全加盟店に、SDGsの取組みの1つ「豊島環境保全・再生」を推進するための募金箱とポスターを配布



募金箱

ポスター



2019.12

日本最大級の環境展示会「エコプロ2019」に出展

2020.3

外務省「JAPAN SDGs Action Platform」の取組事例にSDGsの活動が掲載

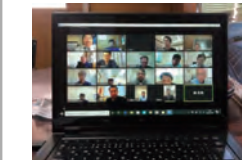


2020.4.16

「緊急事態宣言」
全都道府県に拡大

2020.5

オンライン理事会
コロナ禍対応で総額1億円以上の組合員支援を決定



オンライン会議を活用し
グループ活動を再開

2020.5

ベルマークバーチャル説明会



2020.6

オンライン臨時総会



2020.7

令和2年7月豪雨 被災車両復興支援



新型コロナウイルス感染予防対策

組合事務局・(株)NGP本部事務所のおもな感染対策

- ・感染者発生時の濃厚接触者抑制のため本部近隣ビルに仮事務所を設置し、事務所・人員を分散
- ・社員密集による感染リスク回避のため、在宅勤務/シフト勤務により出勤率抑制
- ・在宅勤務の環境整備(対象者全員にパソコン、携帯支給)
- ・出勤時も就業時間短縮/オフピーク通勤の適用でリスク抑制
- ・通退勤時および執務中のマスク着用
- ・社内入室時の手指のアルコール消毒実行
- ・自宅での健康チェック、毎日の検温



ソーシャルディスタンス



入口にアルコール消毒ディスペンサー

NGPの組合員支援策の概要

1. NGP日本自動車リサイクル事業協同組合支援策

- ①賛助会員を含む全組合員の本年度分賦課金免除(6月から8月)

2. (株)NGP支援策

- ①本部取り扱い車両の取引手数料を対象期間中無償化(5月から8月)
- ②廃車王の本部成約手数料を対象期間中無償化(同上)
- ③NGPシステム利用料の免除(同上)

3. テレワーク支援策

NGPシステムを遠隔で利用できる環境を提供



NGPシステムを遠隔利用



組合員各社も徹底した感染予防対策を実施した

2020



被災地の復興支援

令和元年台風19号及び千葉県豪雨 被災車両復興支援

関東、甲信越、東北地方の広範囲に甚大な被害をもたらした令和元年台風19号を受け、2019年10月17日に対策本部を設置。被害の大きかった地域を中心に7ヶ所のヤードを設置し、被災車両の引き取りをスタートしました。

さらに、千葉県に多くの被害をもたらした千葉県豪雨が10月25日に発生したことを受け、千葉県茂原市に茂原ヤードを設置しました。



全国からNGP組合員が集まり作業に当たる



水害被害にあった車両は泥を含み作業は難航した



続々と被災車両がヤードに集まり被害の甚大さを物語る



ヤードから車両を搬出する正確さと素早さも求められる

被災車両引上げ台数
約 **4,600** 台

8ヶ所のヤードの総面積
26,000平方メートル

令和2年7月豪雨 被災車両復興支援

九州地方を中心に大きな被害をもたらした令和2年7月豪雨を受け、2020年7月4日に対策本部を設置。7月9日に熊本県人吉市に人吉ヤードを、15日には福岡県筑後市に長浜ヤードを設置し、被災車両の引き取りをスタートしました。

コロナ禍という厳しい環境下での作業となりましたが、NGP九州支部組合員の全面協力のもと、感染防止対策を徹底して作業に当たりました。

被災車両引上げ台数
約 **900** 台

感染防止対策

お客様訪問時の対策

- ▶ マスクを着用して訪問
- ▶ 消毒用アルコールと除菌ペーパーを携帯
- ▶ 面談時、ソーシャルディスタンスを保持（最低でも1m以上）
- ▶ 正面で向かい合っただけの会話はなるべく回避
- ▶ サイン等をお願いするときは、お客様の目の前でボールペンを消毒し手渡す（携帯用アルコール又は除菌ペーパー等を使用のこと）

ヤード内での対策

- ▶ マスクを着用して作業
- ▶ 毎朝の検温
- ▶ 仮設事務所の消毒の徹底
 - 事務所内で使用する設備機器・道具類は、使用する都度消毒し、かつ、朝・昼・晩は、定時に消毒作業を行うこと
 - お預かりした書類・鍵も消毒のこと
- ▶ 仮設事務所の三密の回避
 - 定期的な換気を行うこと
 - 好天時の打合せは事務所外で実施のこと
- ▶ 引取時使用する車両の消毒の徹底
 - 特に運転席、ドアの取っ手等



炎天下の厳しい状況下でもマスクを着用して作業



お客様に対応する場面でも、マスクを着用してソーシャルディスタンスを確保



NGP 産学共同研究



NGP 産学共同研究リユース部品・リビルト部品の追加調査を実施

2013年5月より、NGP・富山県立大学・明治大学と進めていた「自動車リサイクル部品産学協同研究会」は、2016年にリユース部品50部品、2017年にはリユース部品40部品のCO₂削減効果についての追加調査を実施し、研究成果としてNGPの売れ筋90部品「91.4%」のCO₂削減数値を算出しました。

2018年～2019年にかけて、リビルト部品のCO₂削減数値を算出

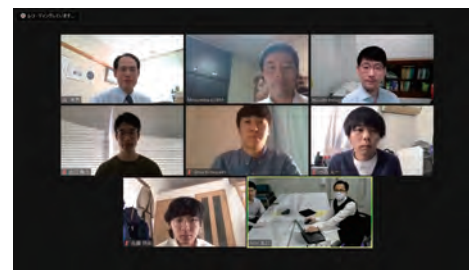
するために工場調査を実施し、NGPシステム搭載に向けて検討を進めています。2020年4月より新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から全てWEBで会議を実施となりましたが、リユース部品を各大学に送り追加調査を実施し、リユース部品「100%」CO₂削減数値を算出に向けて活動を続けてまいります。

2020年の活動

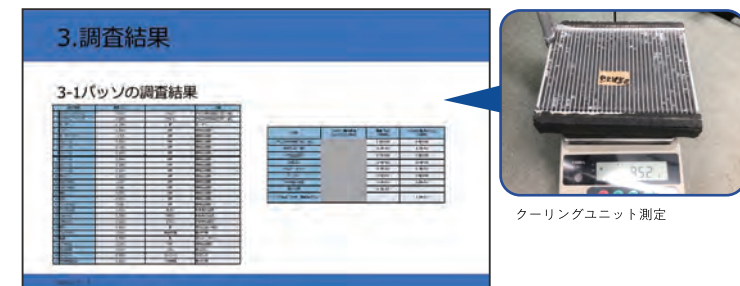
- 2019.09.17 リビルト部品生産工場調査
- 2019.09.20 「第48回リサイクル部品産学共同研究会」実施
- 2019.09.27 リビルト部品生産工場調査
- 2019.10.18 「第49回リサイクル部品産学共同研究会」実施
- 2019.11.15 「第50回リサイクル部品産学共同研究会」実施
- 2019.12.04 リビルト部品生産工場調査
- 2019.12.20 「第51回リサイクル部品産学共同研究会」実施
- 2020.01.27 「第52回リサイクル部品産学共同研究会」実施
- 2020.02.10 「第53回リサイクル部品産学共同研究会」実施
- 2020.02.14 「第54回リサイクル部品産学共同研究会」実施
- 2020.06.05 「第55回リサイクル部品産学共同研究会」実施 ※WEB会議
- 2020.07.03 「第56回リサイクル部品産学共同研究会」実施 ※WEB会議
- 2020.08.11 「第57回リサイクル部品産学共同研究会」実施 ※WEB会議



リユース部品の調査は「密」を避け各大学で行われた



会議はWEB会議で行われた



リユース部品の調査結果（調査部品：クーリングユニット）



クーリングユニット測定

NGPの産学共同研究の成果については専用ホームページ「NGPエコプロジェクト」で公開しています。
<https://www.nepp.jp>

研究成果のリサイクル部品のCO₂削減効果値は、NGPがリサイクル部品を販売時に発行する見積書・納品書・請求書・検査証に記載されています。



日本最大級の環境展示会『エコプロ2019』に出展



NGPは、2019年12月5日～7日に開催された「エコプロ2019」に出展しました。「エコプロ」には2006年から出展しており、今回で14年連続出展。

来場者を通してリユース部品や自動車リサイクル部品業界に対する認知度は徐々に高まってきており、環境問題を学校で学ぶ

小中学生からも高い関心を得ることができました。また、今回は瀬戸内オーリーブ基金の取り組みを紹介し、豊島事件の経緯と、産業廃棄物を適正に処理することの重要性を伝えました。事件を知らない子どもたちだけでなく、当時の報道を知る大人の方からも多くの質問が寄せられました。



NGPブース 沢山の方にご来場いただいております



SDGs宣言 瀬戸内オーリーブ基金の取り組み紹介



NGPのSDGs宣言



NGPのSDGs宣言 瀬戸内オーリーブ基金の取り組み「豊島」の紹介



エンブレムは大人気



リユース部品の実物を展示

交通遺児育英会の活動支援



保護者の交通事故が原因で経済的に修学が困難となる子どもたちが一人でも減ることを願ってNGPは1991年より30年間売上の一部を交通遺児育英会の「あしながおじさん奨学金制度」に寄付しています。



ベルマーク運動



●2012年2月ベルマーク協賛加盟

2011年3月11日に発生した「東日本大震災」をきっかけに、全国の子どもたちのためにベルマーク支援活動を開始

NGPリサイクル部品に貼付される「NGP ガランティシール」にベルマーク5点を付与

品質OK!

子どもたちのために

1985年	4月	九州3社により「西日本グッドパーツグループ」としてスタート
1987年	3月	本部設立、事務所を福岡に開設
	4月	「日本グッドパーツ (NGP) グループ」に名称変更
1989年	6月	NGP オンラインネットワーク完成
1990年	11月	株式会社エヌ・ジー・ピーを設立 (現:株式会社NGP)
1991年	1月	「NGP ニュース」を創刊
1995年	11月	「日本自動車リサイクル部品販売団体協議会」発足、同協議会加盟
1998年	10月	「リサイクル部品協力店」14,000 店達成
2000年	5月	大東京火災海上保険 (株) (現:あいおいニッセイ同和損害保険株式会社) との間でリサイクル部品供給、及び全損車両回収業務提携
2001年	10月	トヨタ部品共販株式会社へリサイクル部品供給開始
2002年	2月	第1回国際オートアフターマーケット EXPO2002 出展
2003年	9月	NGPグループ本部を東京都港区に移転
2004年	10月	「NGP日本自動車リサイクル事業協同組合」設立 (経済産業省所管)
2005年	5月	日本自動車車体整備協同組合連合会に賛助会員として入会
	6月	NECソフトとの協同開発による新NGPシステム完成
	9月	NGPシステムとJAPRAシステム相互利用に合意
	11月	廃車買取サイト「くるマック」全国展開 (現:廃車王)
	12月	日本自動車車体整備協同組合連合会とNGPダイレクト試験運用開始
2006年	6月	マツダ部品販売株式会社 (現:マツダ・パーツ) へリサイクル部品供給開始
	8月	あいおいエコパートナーへのNGPダイレクトシステム展開 BS サミット会員への NGP ダイレクトシステム展開
	10月	ロータス会員へのNGPダイレクトシステム展開
	12月	エコプロダクツ 2006 に出展 (以降、毎年出展)
2007年	1月	JA 共済連と全損車輻回収の業務提携
	2月	NPO 法人世界 (旧:広島未来グループ) 入会
	5月	早稲田大学・JAPRA・NGP共同でCO ₂ 削減効果のデータベース構築
	7月	オートバックスセブンと車輻引取りの業務提携
	9月	ISO9001 認証取得 (NGP組合本部)
2008年	4月	株式会社損害保険ジャパンと全損車両回収の業務提携
	9月	海外向けNGP個社ダイレクトシステム運用開始
2009年	3月	リターナブル梱包材運用開始
	10月	「コンピュータ画像検索システム」テスト運用開始

2010年	3月	「クレーム情報検索の電子化」で情報収集
	9月	再生資源回収利用協会視察団 (中国) 来日
	10月	韓国リビルト工業会と交流覚書の調印
		ユーザー向けに優良な整備事業者を紹介するWebサイト「NGPエコひろば」開設
2011年	4月	東日本大震災被害車両の回収活動実施
	7月	部品ごとの「CO ₂ 削減効果の見える化」を開始
2012年	4月	リユース部品にベルマークをつけてベルマーク運動に協賛
	10月	業界初のテレビCM 放映開始
2013年	1月	NGP 青年部発足
		全国自動車整備協業協同組合協議会とのリサイクル部品流通に関する提携合意調印
	4月	「マフレ・ワランティ・ジャパン」と業務提携
	5月	「自動車リサイクル部品産学共同研究会」を発足
	12月	廃車買取サイト「くるマック」を「廃車王」にリニューアル
2014年	3月	「東日本自動車解体処理協同組合」と業務提携
	7月	「自動車リサイクル関連総合サービスサイト」を開設
	10月	かんたん钣金見積システム「ぱっと!くん」をあいおいニッセイ同和損保と共同開発
2015年	7月	「NGPパーツ王」としてAmazonでリユース部品販売開始
	9月	関東・東北豪雨被災車両の回収復興支援開始
		ISO9001・14001合同認証取得 (組合本部/組合員70社)
2016年	4月	CO ₂ 削減効果値の理論的根拠の発表
	9月	ISO27001合同認証追加取得 (組合本部/組合員101社)
	10月	「中小企業団体全国大会」で優良組合表彰を受賞
		NGP 創立 30 周年記念式典を開催
2017年	3月	ホームページ全面リニューアル
	8月	「NGP産学共同研究会」主要売れ筋部品「91.4%」のCO ₂ 削減効果値を算出
	10月	「ブロードリーフ」と業務提携
2018年	4月	「廃車王」業界初の全国テレビCM 放映
	7月	「平成 30 年7 月豪雨」被災車両の回収復興支援実施
	11月	ISO45001合同認証追加取得 (組合本部/組合員101社)
2019年	7月	SDGs宣言及び取り組み推進活動開始
	9月	九州北部豪雨による被災車輻の回収復興支援実施
	10月	台風15・19号・豪雨による被災車輻の回収復興支援実施 (全国8ヶ所)
2020年	1月	NGPシステム大幅改良 (一般向け形状マスター化)
	3月	外務省「JAPAN SDGs Action Platform」取組事例にSDGs活動掲載
	7月	九州豪雨水害による被災車輻の回収復興支援実施

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合

- 組織名：NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
- 本部：〒108-0074 東京都港区高輪 3-25-33 長田ビル 2F
- TEL：03-5475-1208
- FAX：03-5475-1209
- 創立：1985年4月
- 理事長：佐藤幸雄
- 組合員数：136 組合員、165 拠点
- 事業内容
健全な自動車リサイクル事業の構築を目指し、全国組合員企業の経営意識向上、意識改革までの「企業の社会責任」を遂行し、補修部品の消費者へ啓蒙と販売
- 主要取引銀行
商工組合中央金庫東京支店
みずほ銀行五反田支店
- URL <https://www.ngp.gr.jp/>
- e-MAIL ngphonbu@ngp.gr.jp



株式会社 NGP

- 株式会社NGP
株式会社 NGP は、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合の関連会社です。
協同組合と一元一体体制のもと、NGP グループ支援を中心に事業展開をしております。
- 社名：株式会社 NGP
- 所在地：〒108-0074 東京都港区高輪 3-25-33 長田ビル 2F
- TEL：03-5475-1200
- FAX：03-5475-1201
- 設立：1990年11月
- 代表者：代表取締役 佐藤 幸雄
- 事業内容
NGPシステムの運営管理
損害保険会社及びリース会社使用済み自動車引取窓口業務
ISO14001 コンサルティング
その他サポート
- 許認可
古物商許可：東京都公安委員会第 301090207822 号
引取業者登録番号：20131004378
- URL <https://www.ngp.co.jp/>

